

B-63 各種衣料用洗剤のウール製品洗淨可否の検討—黄変・収縮機構を中心に—  
ライオン家庭科学研究所 ○石田多美江 田中文三 渡辺真郎 戸張真臣  
永山升三

目的 ウール製品の家庭洗たくでは、従来中性洗剤を用いることが一般化しているが、最近では、弱アルカリ性合成洗剤や粉石鹼の中にもウール製品の洗淨を訴求したものが認められる。そこで各種衣料用洗剤によるウール製品洗淨の可否を明確にすることを目的として本検討を行った。

方法 市販の中性および弱アルカリ性合成洗剤、粉石鹼を用いてウール編地をくり返し洗淨し、洗淨力、風合い、黄変、染色堅ろう度、強度、収縮、臭気等を比較評価した。

結果 粉石鹼、弱アルカリ性合成洗剤は中性洗剤に比べ黄変、強度低下が著しく、染色堅ろう性に乏しい。さらに粉石鹼には著しい酸敗臭があった。粉石鹼、弱アルカリ性合成洗剤の黄変は、アルカリの寄与が最も高く、粉石鹼の場合には脂肪酸組成も大きく影響していると考えられる。また、洗たく機で洗淨すると弱アルカリ性合成洗剤や粉石鹼は中性洗剤に比べ収縮の傾向にあった。これは、弱アルカリ性合成洗剤や粉石鹼のようなpHの高い洗淨系では、ウール表面のスケールがアルカリで侵されることや、さらに粉石鹼の場合、スカム付着もその一因と考えられる。なお、手洗いでは、洗たく機洗淨に比べ収縮も小さく、洗剤間での差は認められなかった。

以上の結果、汚れは比較的少なく、繊細なウール製品の洗淨には、衣料に穏やかに作用し、仕上り性能も特に問題なく満足している中性洗剤の使用が望ましく、弱アルカリ性合成洗剤や粉石鹼は、各々、著しい衣料の損傷、臭気、黄変現象等を来し、ウール製品の洗淨には適さない。